

## 『離散構造』 2章 の例題

### 例題 1 (集合の表現)

以下の集合を  $\{x \in A \mid P(x)\}$  の形で記述せよ。

- (a) うるう年 (4 で割り切れ、100 で割り切れないか、または、400 で割り切れる年) の集合
- (b) 素数の集合
- (c) 3 桁の自然数で、それぞれの桁の数字が異なるものを集めた集合 (例: 123 はこの集合に属し、122 は属さない.)
- (d) 自然数の集合で 3 を含むもの (たとえば、奇数の集合や素数の集合) をすべて集めた集合

### 例題 2 (集合の演算)

$A = \{1, 2, 3\}$ ,  $B = \{2, 3, 4\}$ ,  $C = \{1, 3, 4\}$  とするとき、以下の等式の左右両辺を計算して、等式が成立するかどうか答えよ。

- (a)  $A \cup (B \cap C) = A \cap (B \cup C)$ .
- (b)  $(A \cup B) \cap C = (A \cap C) \cup (B \cap C)$ .
- (c)  $(A \cup B) - C = (A - C) \cup (B - C)$ .
- (d)  $(A \cap B) - C = (A - C) \cap (B - C)$ .
- (e)  $2^{\{\}} = \{\}$ .

### 例題 3 (集合に関する推論)

任意の集合  $A, B, C$  に対して以下の式が成立するか考え、証明または反証せよ。

- (a)  $(A \cap B) \cup C = (A \cup C) \cap (B \cup C)$ .
- (b)  $(A \subset B) \Leftrightarrow (A \cup B = B)$ .
- (c)  $A = B \Rightarrow A - C = B - C$ .

### 例題 4 (集合の要素の数)

集合  $A$  に対して、その要素数を  $\#A$  と表示する。(なお、集合の要素数のことを、濃度 (cardinality) と呼ぶ.) 以下の論理式がすべての有限集合  $A, B$  に対して成立するかどうか考えなさい。

- (a)  $\#(A \cup B) = \#A + \#B$ .
- (b)  $\#(A - B) = \#A - \#(A \cap B)$ .
- (c)  $\#(A \times B) = \#A \times \#B$ .